

目標設定のプロセス

専門性のある
教師との協働

- Step1 **実態把握** ・「情報一覧」の作成
・自立活動チェックリストの活用
抽出の観点
- Step2 **課題の抽出** ・生活年齢や環境設定の軸との関連
・めざす姿の想定
・個別のニーズとのすり合わせ
- Step3 **自立活動の指導目標設定** ・指導仮説
- Step4 必要な項目の選定
- Step5 具体的な指導内容の設定

事例研究まとめ

目標設定のプロセス

課題の抽出

	カリキュラムの幅	自立して活動する場
小学部	幅広い内容、発達バランス	家庭・教室内
中学部	興味・関心、役割	学校内
高等部	焦点化、高度化、確実化	学校周辺 地域社会
青年期 成人期	本校のキャリア教育の考え方	

- 今、子どもに「指導すべき教育内容」の
焦点化を図ることができた。



自立活動の6区分からの実態把握

◎可視化

×

めざす姿の想定

◎指導の
一貫性

考察

全職員が、
授業や指導の根拠を
説明できる！

本研究の成果

- 目標設定のプロセスを通して妥当性を高める
- 生活年齢や各学部段階を意識した目標設定へ
- 協働することの重要性

本研究の課題

- 課題の背景要因を分析することの難しさ
- 教育課程への理解を深め、授業実践に活用する

根拠の要点

課題の解決に向けて…

- ①情報収集
- ②学びの履歴
- ③背景要因
- ④生活年齢と環境設定の二軸
- ⑤教師の協働



おわりに

学習指導要領～自立活動～

【個別の指導計画の作成と
内容の取扱い】

(2) 児童又は生徒の実態把握
に基いて得られた指導すべき課
題相互の関連を検討すること。

その際、これまでの学習状況や
将来の可能性を見通しながら、
長期的及び短期的な観点から指
導目標を設定し、それらを達成す
るために必要な指導内容を段階
的に取り上げること。

手続きの可視化
→共有の始まり

